

# 被災者支援センター・エマオ 放射能問題支援対策室・いずみの働きを続けるための支援 のお願い

2015年12月

日本基督教団東北教区 常置委員会  
教会救援復興委員会

主の御名を賛美します。

東日本大震災発生より4年半以上、この間被災地を覚えてのお祈り・お支えに深く感謝します。

この震災は、揺れによる被害、津波による被害、東京電力福島第一原子力発電所事故による放射能汚染被害という重層的なものでした。そうした中、当教区は震災発生直後「被災者支援センター・エマオ」を設置し、困難の中にも希望を見だし、つながり、支え合うことを目指す諸活動を展開してきました。これまでに7500名を超えるボランティアワーカーが奉仕し、地域から信頼と評価を頂いてきました。

また、2013年10月には「放射能問題支援対策室・いずみ」を発足させ、放射能汚染からいのちとからだを守る働きを開始しました。課題の甚大さの前に力の乏しさを思わざるを得ませんが、主なる神から分け与えられたいのちの重さを心に刻みつつ、なし得るわざに向かっています。

これらの働きには、全国の諸教会・諸教区・教団、さらには海外の教会からも、多くの祈りと支えが与えられました。深く感謝します。そのうち働きのための資金については、当教区へ捧げられた献金、教団ならびに海外教会からの資金援助によって、2016年度末までの予算が確保されています。

いっぽう私たちは、今しばらくこれらの働きを継続させる必要を感じています。被災地では弱者が取り残される状況が生まれ、放射能による健康被害がより心配される段階に入るからです。2017年度以降の働きのあり方・規模・期間については来年度の教区総会で協議・決定すべく、準備を進めています。教団は救援募金をすでに閉じ、対策本部も2016年度末をもってその働きを終えます。したがって2017年度以降のエマオ・いずみの働きは、「東北教区東日本大震災教会救援特別会計」によって行わねばなりません。地域に仕え、希望を証するこれらの働きの継続に向けて、この会計を支えて頂きたく、ご協力をお願いします。

期 間	2016年10月末日まで
目 標 額	特に定めません
献金の使途	「東北教区東日本大震災教会救援特別会計」に繰り入れ、エマオ・いずみの働きの資金に充当します
振 込 口 座	郵便振替 02220-5-137681 「日本基督教団東北教区」 ・同封の振替用紙をご利用ください ・同じ口座で、「東日本大震災救援を続けるための募金A： 会堂・牧師館再建復興貸付金を受けた教会の返済支援の ために」も募っています。 どちらにお捧げかご記入願います
問い合わせ	東北教区事務所 ・980-0012 仙台市青葉区錦町1-13-6 ・TEL 022-222-0998 ・FAX 022-222-0996

## 被災者支援センター・エマオ

被災地では心の課題の顕在化、地域コミュニティ離散による孤立化など、ソフト面の回復はむしろまだこれからです。そのような中で、仙台市は仮設入居を2016年春までとする「退去期限」を設けました。石巻では復興公営住宅の再建などが遅れ、仮設入居期限は出ていませんが、入居率30%を切った仮設から集約を始めることが検討されています。

エマオでは、各仮設(仙台:7ヶ所、石巻:7ヶ所)で、お茶っこ・昼食会・個別訪問・草取り・除雪などを行っています。入居者が減る中で、少なくなっているからこそ「仮設の最後まで」通い続けさせていただきたいと願っています。津波被災農家のお手伝いや子どもプログラムも継続して行っています。2017年度以降も「お祈り」と「スローワーク」を繋げていくために、主に下記のような活動を展開していきます。ぜひ、ご支援をお願いいたします。

### ① 「仮設の最後まで」

石巻では2017年度に入っても応急仮設住宅が残っている可能性が高く、「心の復興」の面ではもっと長い時間がかかります。エマオ石巻が関わらせていただいている「仮設の最後まで」細く長く、地区・教区の教会と連携しつつ活動を続けていきます。

### ② 「ささこクラブの継続」

エマオが震災直後から出会いを与えられている津波被災地・笹屋敷で、「津波だけでなく楽しい思い出をいっぱい作ってほしい」という願いを込め、毎月2回子どもプログラムを行っています。毎回10名以上の子どもたちが参加し、地域の方たちからも喜ばれています。子どもたちの笑顔のため、これからも地域の方たちと共に活動を続けていきます。



## 放射能問題支援対策室・いずみ

放射能問題支援対策室「いずみ」は、2013年5月に行われた東北教区総会の決議に基づき同年10月に発足しました。室長1名、顧問1名、運営委員5名、スタッフ4名、その他ボランティアスタッフなどで、放射能汚染に関わる様々な活動が展開されています。発足当初から三本の柱は、健康相談と検診、保養プログラム、傾聴と訪問です。

健康相談は、大阪教区の支援を受け山崎知行医師(和歌山県の愛隣教会員)による健康相談会を特に放射能汚染被害の大きい福島県の教会付帯施設の子どもの中心に実施してきました。また、震災当時18歳以下の子どもの甲状腺のエコー検査を行っています。第1回は2013年12月に仙台で行いましたが、3日で申し込みが定員に達し締め切らざるを得ませんでした。この問題に対する関心の高さを示しています。しかし、宮城県をはじめとして福島県以外の隣県の行政はいずれもこうした取組について必要ないと判断しています。福島も隣県も空はつながっているのです。「いずみ」では2014年7月以降、基本的に毎月一度の検査を4名の医師の協力を得て行ってきました。最近では仙台のみならず、福島県に近い宮城県南部の市や町に出向いています。この12月には第23回の検査を、仙台の東北教区センター内に置かれた「いずみ」の事務所で実施の予定です。現在までに約1000人の子どもが検査を受けました。



保養プログラムについては、春は沖縄、夏は北海道で、4泊5日の日程で行ってきました。2016年3月の第9回は、初めて九州の奄美大島で行う予定です。いずれも行き先の諸教会の協力を頂いています。回によって異なりますが、親子で20~30人が参加します。また近距離で一泊二日の保養プログラムも行ってきました。

傾聴と訪問では、福島県葛尾村の避難者を対象とした支援の活動を展開しています。その他講演会の企画と実施もあります。

このような活動を今後も続けていくためには、スタッフの人件費をはじめとした活動費が必要です。全国の教会のみなさんのご支援ご協力をぜひよろしくお願い致します。



伊江島で